



1/20 6年生 中学校体験入学

6年生の小学校生活もあと2か月となりました。現在「卒業文集」「卒業制作」「掃除」「思い出づくり」「卒業式の歌・別れの言葉」の5つのプロジェクトをつくり、卒業式へ向けて準備を進めています。この時期の6年生は、「中学校では勉強や部活動をがんばろう」「小学校ではできなかったことに挑戦しよう」という期待も持っています。その反面「勉強が難しくなり、テストで順番も出る」「先輩は優しいかな」など不安も持っているものです。そういう不安を少しでも減らし、小学校から中学校へスムーズに進むことができるように1月20日(木)龍ヶ岳中学校で体験入学が行われました。龍ヶ岳中学校の福永校長先生から、「自立」と「コミュニケーション」の大切さについて話がありました。龍ヶ岳中の8割の生徒が、親元を離れて高校進学をするそうです。そのためにも、中学生のうちに、自立する力とコミュニケーション能力を高めてほしいこと、その第一歩として「朝、自分で起きる」習慣を付けてほしいという話がありました。



1/18 火災避難訓練

今回の火災避難訓練は、予告なしでの実施でした。前日の1月17日(月)の朝、児童には、今週のどこかで火災避難訓練があることと、避難場所、避難方法などを事前指導しておきましたが、詳しい日程は伝えていませんでした。突然鳴り出すベルと放送をもとに、自分で判断して避難をしなければならないという、実際に起きたときに備えた訓練でした。

総務省消防庁の「令和2年度消防白書」によると、2019年(令和元年)に日本で発生した火災は、1年間に37,683件で、1日当たり103件になるそうです。その約60%が冬から春にかけて発生しているそうです。その原因は1位がたばこ 2位がたき火 3位がコンロです。

前日の1月17日は、阪神淡路大震災から27年目の日でした。その地震では多くの方が亡くなり、火事も発生しました。火災や自然災害はいつ、どこで発生するかわかりません。学校かもしれませんし、家に一人でいるときかもしれません。そこで、火災が発生したときの避難のポイントを3つ話しました。

① 出火場所から、早く離れる

火災による死者(1,486人)の約半分は逃げ遅れているそうです。住宅火災では火災発生から逃げるために使える時間は3~5分ほどなので、早く逃げるのが大切です。

② ハンカチやタオルなどで鼻と口を押さえ、煙をすわない

火災による死因の2位は煙による一酸化炭素中毒・窒息です。煙を吸わないためにもハンカチやタオルで鼻や口を押さえるのが大切です。

③ 低い姿勢で、下に向かって逃げる

煙の速さは、上に昇って行くときは、1秒間に3m~5m(人は0.5m/秒)進み、水平方向には、1秒間に0.5m~1m(人は1m~1.3m)進むそうです。煙を吸わないためにもできるだけ下へ逃げるのが大切です。

今回の訓練では、放送から全員が避難し人員確認まで、3分55秒でした。しかし、火元(理科室)に近いところを逃げてきた児童や、わざわざ混み合っている玄関から逃げようとする児童が多く見られました。多数派同調バイアス(どのように行動してよいか迷ったときに周囲の人と同じ行動を取ることが安全と判断する心理傾向のこと)により、前の方が逃げている方に行ってしまったようです。「KKJ」(気づき・考え・実行する)の力が試された避難訓練となりました。

今後も今回の反省をもとに避難訓練を重ね「KKJ」の力を高めていきたいと思えます。



学校のホームページは毎日更新しています。ご覧ください。